



Atsushi Mekaru

銘苺 淳の

# HAPPY HANDBALL

vol.12

## PROFILE

1985年4月3日生まれ、26才。沖縄県浦添市出身。港川中で野球から転向してハンドボールをスタート。那覇西高一筑波大を経てトヨタ車体に進み、時代を変えるセンターとしての期待を集めて躍動中。ひたむきな取り組み、明るく快活な性格で、ワールドクラスのコミュニケーション能力を誇る『ハンドボール界の松岡修造』。連日更新しているブログ「おにあくま」(<http://meka-atsu.jugem.jp/>)も好評だ。

おごらず、にくまず、あせらず、くさらず、まけるな!!

## 「キョウイク」について考えてみました

しっかりと冬の足音が聞こえてくる季節になりました。受験生はこの時期になると進路を考えたり次のステージのことも気になってきます。そこで今回はどのような「キョウイク」を受けてきたか考えてみたいと思います。

### たくさんのキョウイク

教育について私なりに考えてみました。教育というのは「教える・教えられる」という立場があり成り立ちます。

この「教える・教えられる」という立ち位置が最近では教育の中でもいろいろと考えられてきていますね。教育というのは単に「知識を伝達する」だけではなさそうです。



共育：ともに育まれていく。「教える・教えられる」の両方が成長していく感じ。初めて親になったり先生として働くと感じや発見を通して教える側も学んでいくことが多いでしょうね。

協育：力を合わせて育まれていく。学校、地域、保護者、行政、子どもたちの力を合わせて教育は行なわれるんですね。

強育：強く育てる。社会に出た時に強く、たくましくなければ負けてしまいます。少々の困難に負けないよう子どもた

ちを強くしていくのも教育には必要です。

郷育：ふるさとで育まれていく。自分が生まれ育った場所は特別です。自分のふるさとを誇れることは国際的にも大切なことですし、心地よい場所、帰る場所を作っておけるのも教育の1つですね。

競育：競って育まれていく。競う中で結果が出て、それによって評価されるのが大方の社会です。私は順位をつけない駆けっことかにはあまり賛成できません。結果や順位がすべてではないけど、その中で悔しさを味わったり、達成感を味わったりできるのではないかと…。その過程でライバルは敵ではなく、自分を成長させてくれる仲間だという認識が生まれたり、自分で目標を持って努力することができれば、それぞれ教育だと思えます。

響育：心に響く経験で育まれていく。人間に変化を与えるのは心の琴線に響いた時です。心に響く経験、感動、言葉に出会うことが教育に求められているのかもしれない。

起用育：起用されて育まれていく。なにか新しい役割を与えられると、同時に責任も出てきます。自分の中でベストを尽くすことももちろんですが、グループをまとめたり、新しいチャレンジをしたりと大変なはず。それでも任せる、任せられる中で育まれていくものって大きいでしょうね。

今日育：今日、育む。教育のチャンスというのは毎日、その瞬間に転がっています。ティーチングモーメントという言葉もあり、教育すべき現象が起きたその時に、適切な教育活動をすると効果が上がるというものです。ハンドボールでも

ミスした時に、どんな状況で、どんな判断をしたからミスが起きたんだと教えてもらおうとわかりやすいのですが、練習が終わって最後のミーティングで怒鳴ってみてもなんのことかわかりません。教育は後回しにせず、その瞬間で伝えることが大事なんですね。



我々だと、チームの中での役割に責任を持ち、チームメイトといっしょに力を合わせて、毎日競う中でともに強くなり、その結果、心に響く経験ができるのだと思います。そんな経験をした場所や仲間というのは誇れる、帰る場所となるはずですね。

### ハンドボールは人生

孔子の論語に「学びて思わざれば則ち罔し(くらし)、思いて学ばざれば則ち殆し(あやうし)」という言葉があります。せっかく学んでも自分で考えないことには本当の知識は得られず、考えるだけで学ぶことをしなければ独りよがりになってしまうという意味です。

大学の恩師である大西武三先生も「文武合一」という言葉を教えてくださいました。机上で学んだことをコートの中で活かし、コートで得られたものを学びの場で活かす。文武両道で2つの道を行くのではなく、それらは密接に関係していて、いたるところでリンクされ、それぞれの場面で活かされて1つの大きな道につながるということですね。

ハンドボールで学んだことと日常生活はつながっていますから、まさに「ハンドボールは人生」ということになりましたね(笑)。

### 日々「よき変化」を

恩師の新垣健先生は「教育とはよき変化を与えること」と言っていました。教育は時代やニーズによって変化します。しかし、普遍的であり不変的なものがあります。人が変化を起こすというのは簡単ではないため教育現場では何度も何度も同じことを根気よく伝え、伝え続けるのだと思います。教える側は「よき変化」を期待していますから♪

みなさんは学校や家庭の中でどのようなキョウイクを受けていますか? 「キョウイク」が「恐育」や「凶育」とならないようにしていきたいですね。私は教員でも親でもないですが、もしもハンドボールを通して「キョウイク」の一環を担っていけるならばこんなに素敵なことはないと思いました。そして改めて両親と恩師の先生方、出会ったすべての方々から私に施してくださったキョウイク活動に感謝の気持ちでいっぱいです。私も「まだまだ精進せねば!!」と学びの日々です。

